

coffee time

狭間

塀や櫓には、外部を見て矢・弾丸・石などを放つ小窓がある。狭間(さま)と呼ばれる銃眼である。矢狭間は縦長の長方形、鉄砲狭間は正方形・円形・三角形などさまざまだが、いずれも内側を大きく外側を小さくえぐり、内部からは攻撃しやすく外部は弾丸が飛び込みにくくように配慮している。そのほか、槍をつきだす槍狭間、上下2段につくった二重狭間、石垣のあいだにつくった石狭間などもあり、これらの狭間を塀や櫓に適当にまじえている。



菅原神社

④菅原神社
「天神社」(日光道中略記)といわれた菅原神社は、学問の神様として知られる菅原道真公(承和12年~延喜3年、845~903)を祀る神社。



薬師堂

③薬師堂
朱塗りのお堂が珍しい薬師堂。

②陸上自衛隊航空学校
北宇都宮駐屯地は、栃木県宇都宮市上横田町と台新田に所在し、航空学校宇都宮校等が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地である。
1,700m滑走路を持つ宇都宮飛行場があり、駐屯部隊の大部分を航空科が占めている。(航空学校宇都宮校、第12ヘリコプター隊第1飛行隊及び東部方面管制気象隊第4派遣隊)
また、官公庁航空機(防衛省、海上保安庁、都道府県警察ヘリコプターや消防防災ヘリコプター)の製造・整備を行う富士重工業宇都宮製作所(航空宇宙カンパニー)南工場と栃木県警察航空隊が同駐屯地に隣接しており、飛行場を協定により共同使用している。

東京から101km



55 雀宮宿 ~ 宇都宮宿
 栃木県宇都宮市
 宮の内 ~ 台新田
 (歩行距離 1949m 25分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp



台新田交差点

⑤台新田
「此村は、上横田村の分村にて、横田新田と唱へしが、本郷の方は土地低く此村は高さゆゑに貞享年中(1684~1688)より台新田と改たむ」(日光道中略記)
上横田村の分村だったが高台にあったので、台新田に改めたという。村の長さは4町53間。
宇都宮藩主が参勤交代などの出府や帰城の時に、領内各村の名主や町年寄などが台新田御茶屋にて送迎をしたという。
將軍社参の時、仮の茶屋を設けた。

④東京から102km

貴目改め所(千住宿)
千住の貴目改所は寛保3年(1743)に敷地内に併設されました。公用荷物を伝馬で運ぶため、重量を測り運賃を決める役所です。
日光街道では宇都宮に北側の改所があって江戸へ来る荷物は宇都宮で江戸から出る荷物は千住で重量を測り運賃を定めました。
委託する客は大名や寺院などで町人がそれに文句をつけられないので郡代役所の役人が常駐していました。
しかしそれでも少なめに計る事が多かったようで越谷や粕壁などの宿場はかなり不満を持っていました。
4名ほどの所員がいましたが郡代役所の出役の役人以外は問屋場が兼任していた。
明治時代になって運送会社の制度が出来るまで使われました。
この宿の中心の役所は明治の町村大合併で千住八町の内、本宿5町と仲町(河原町と橋戸町を含む)が合併して千住町になり足立郡が分割されて東京府に属した部分が南足立郡になるに及んですこし西側の裏に移転し千住町役場(旧足立区役所の分室:不動院隣の部分)と南足立郡役所(旧足立区役所本庁舎の所)となりました。
そしてこの日光街道に面する敷地は民地になりました。



陸上自衛隊航空学校正門

①上横田村
「村内杉並木の右、筑波山、益子山、茂木山などはるかに見え、左に鍋山、出流山、大平山など遠望すべし」(日光道中略記)と眺めがよかった。

うつつのみや遺跡の広場
今から約5500年前の縄文時代前期の大集落で、現在は「うつつのみや遺跡の広場」として復元整備されている。国指定の文化財で、ニコウキスゲの群生地。

宇都宮の名産品
「産物 さらしもめん、かんぴやう、鮎、竹笠、団扇、紙たばこ入」(五海道中細見独案内)「当所の産物、縮布・真綿・袋足袋・紙煙草入・洪団扇、千瓢の六種は往古より当所にて作り出し」さらに「生掛の蠟燭」貞林が作り始めた。大工町の鈴張又右衛門作「鷹の鈴及び鉄鏝」、宇都宮笠ともいう「筐笠」も名物としていた。(日光道中略記)
栃木県はかんぴょうの生産日本一。その実をくりぬいて作る「ふくべ細工」は、宇都宮の代表的なお土産です。ほかにも、無病息災を願う郷土玩具「黄ぶな」や「大谷石細工」などがある。



北宇都宮駐屯地交差点

城下町の形成
城下町の構成要素は、城・武家屋敷・町屋・寺社の4つである。城を防衛し、城下を繁栄させるため領主の城を中心とし、重臣・中下級武士・武家奉公人・商人・職人・そして寺社を配置した。藁屋町、魚屋町、紺屋町、鍛冶町、呉服町、茶町、畳町、大工町、塗師町、炭町、具足町、鋸町など百種にものぼる職人町があった。